

藤原定明の謎解きシリーズ

甦った神々

◆はじめに

- ・謎解きシリーズの「秘密結社八咫鳥と『神の救いの計画』」で、神も「神の救いの計画」も間違いない存在することが明らかになった。

- ・暗号者、秘密結社「ヤタガラス」は、
4500年前に神のご指示で「星の暗号」を
刻んだ
- ・同じ神から「救いの計画」を「約束の人」
野崎香代子先生は伝えられた。

- ・香代子先生に「救いの計画」を伝えた神は、少なくとも4500年前から存在する。
- ・その神を、「神の救いの計画」の解説書でもある「日月神示」は「世の元の神」と言った。
- ・お伝えする神々は「世の元の神」。

◆瞑想修行(神々との出会い)のきっかけ

昭和41年

野崎香代子先生のご主人である卓巳先生が、神事修行を30年以上されている倉本さんという方から、香代子先生に会わせて欲しいという依頼を受けた。

倉本さんは香代子先生の顔を見るなり
「私の感じた通りの方でした。奥さんには、
とてつもなく**大きな神さまがついておられる**
と思います。ぜひ一度、**瞑想してください**。
必ず、あなたに縁のある神さまが、姿を見
せてくださるはずですよ。今がその時期だと思
います」と言われた。

卓巳先生(ご主人)には、介添^{かいぞ}え役として香
代子先生の傍^{そば}について、香代子先生が話さ
れることをメモするように言われた。

★この時から、香代子先生と卓巳先生の、
二人三脚の神さま修行がはじまる。

昭和41年8月13日

てんちのおうおおがみのみこと

天地王大神尊

瞑想後、いきなり、天上界におられる天地王大神尊という神が現れた。

その神は**黄金の宮殿**に住まれ、その姿は頭に**星のついた冠**をかぶり、左手で**地球**の玉を持ち、右手で星のついた杖を持つ、まるで仙人のような姿である。



「どなたですか」と尋ねると

「私は天と地を支配している天地王大神という。お前は何十万という人を救わねばならない。お前はその役割を持たされている。心すべし」と言われ、天地王大神尊の**正式な衣装**とその衣装につける「**紋章**」も教えられ、そして次の言葉を述べられた。

聞けよ聞け この身の方は神の御魂みたまぞ

神の御魂の身にかけて

人とこの世のためとならん

この世のため人のため

尽くすこと神の道なり

人の道にたが違ふこと 神の道にそむ背くことなり

水の流れに逆らうは

人と我が身を滅ぼすなり

人の道に問うてこそ

神の情けにすぎる我身わがみの

心の道を求めてこそ 我身の神の助けあり

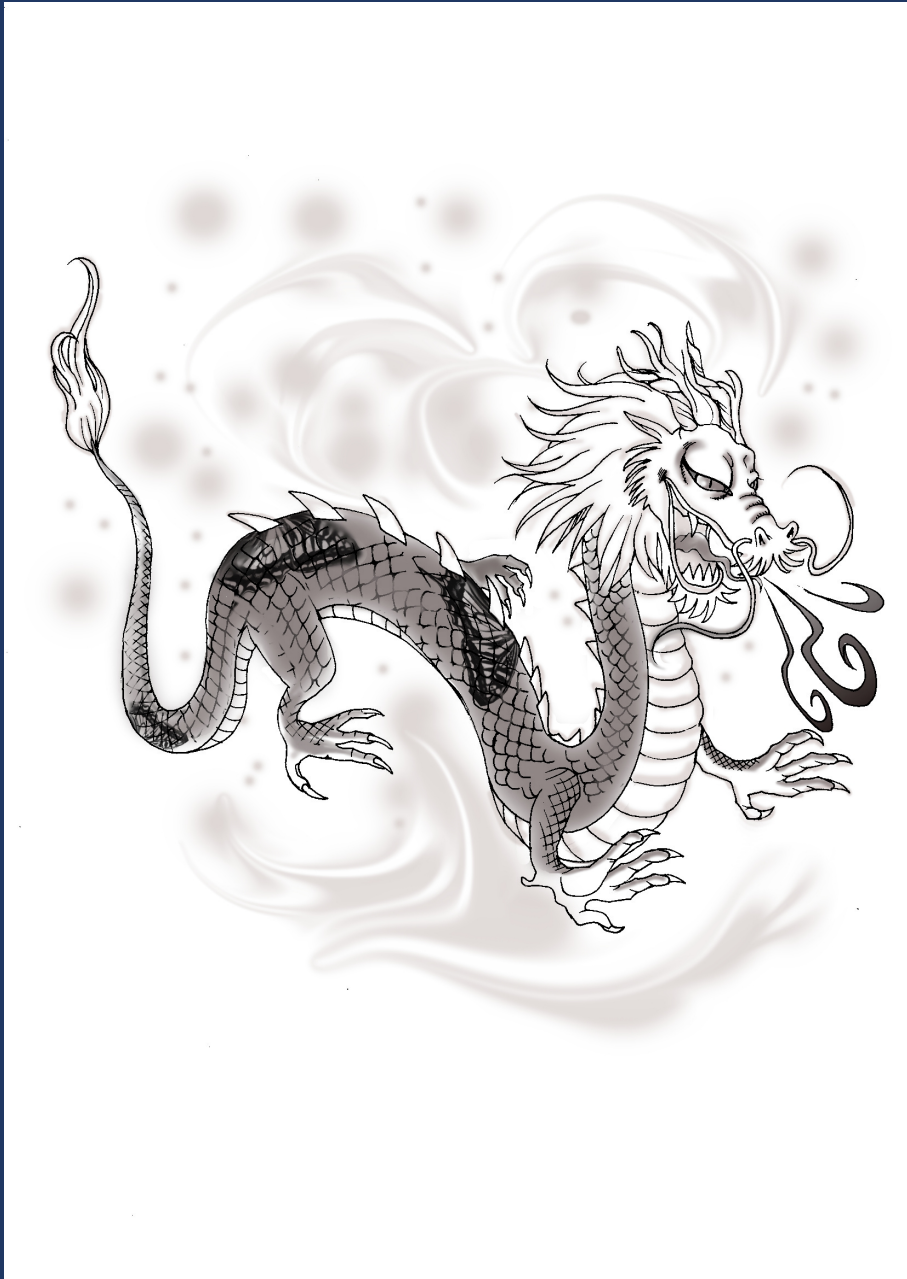
信じるは我身の徳 人のためなり

★香代子先生はこの天地王大神尊の御魂を肉体に宿して、
地上世界に降臨された。そのことは、後で明らかになる。

昭和41年8月18日 ちょうじん 蝶神龍王

体に蝶の模様を付けた蝶神龍王という名の龍が、口から火を吐きながら現れた。

「私は、貴女が天上界へ行かれる時の道案内の役を務めるものです」と言われ、この後も、香代子先生が大神のところへ行く時は、この龍王の背に乗せられる。



昭和41年8月20日 大黒天王

だいこくてんのう

大黒天王という神が現れ、

「私が神仏の世界、神仏の言葉、神仏の文字の解釈をさせていただきます」

と言われる。

この大黒天王は、七福神の一神の大黒さんとは異なる神。

この神は身体の半分くらいが頭で、全身知恵の固まりといったような姿で、先生に知恵を授ける「**知恵の神**」。

★先生と同じように、「神の世界」を体験された方が何人かいるが、皆さんそれぞれの「知恵の神」がついておられる。



昭和41年8月20日 毘沙門天王

北の方角から、右手に棒を持った童神が走
ってくる。しばらくすると、^{よろい}鎧をつけた
^{びしゃもんでん}毘沙聞天の姿に変化する。

「私は貴女を護衛する役目がある。私に用事がある時は、手に女郎花おみなえしか桔梗ききょうの花を持つべし」と言われる。

★毘沙聞天と、仏教でその妻とされているきっしょうてん吉祥天が「天上界」と「三界」における香代子先生の脇神（側近）。



吉祥天



毘沙門天



昭和41年8月23日 大日如来と不動明王

大きな玉が現れ、大日如来の姿となる。

次に36体の童神が次々と現れ、その36体の神々が合体して不動明王の姿に変化する。

〈解説〉

経典によっては、不動明王は36体の童子を従えるという説もある。

この日の先生の体験から、不動明王は36体の童子(神)を眷属に持っていることがわかる。厳密にいうと、不動明王は36体の童子が合体した神である。

★香代子先生は「神の世界」の体験を通して、「神の世界」や神々のことを学ばされている。

大日如来



不動明王

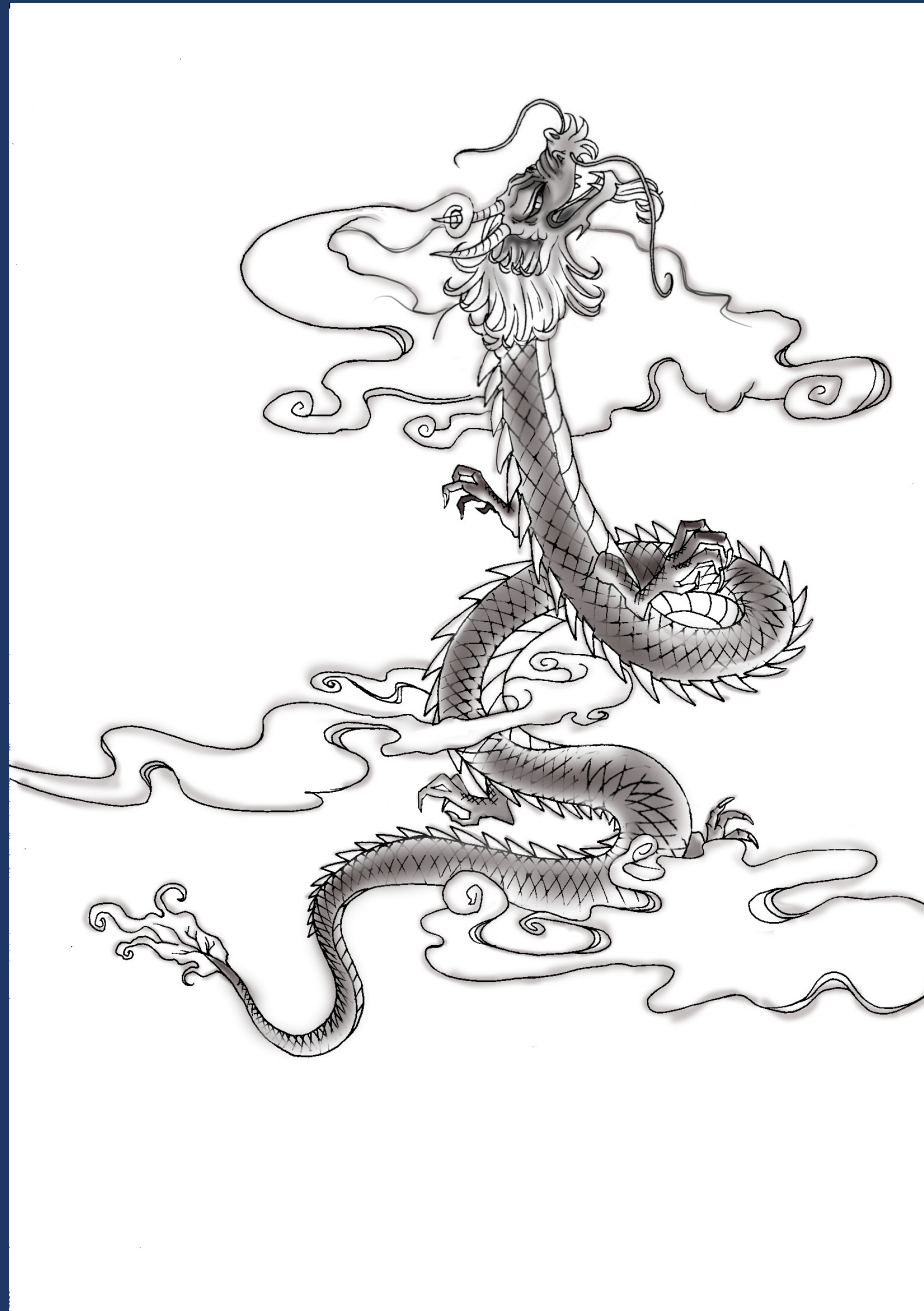




昭和41年8月23日 龍神

青黒色の龍神が出現され、

「私は各龍王の王者なり、私は天と地を^{かけ}翔
る」と言われる。



〈解説〉

龍神と龍王は、住む世界が異なる。

「神の世界」には、「天上界」「地天界」「三界」の3つの世界がある。

「三界」とは地球も含めた宇宙のことで、「天上界」と「地天界」は宇宙の外側にある。

私たちの住む世界に例えると、「天上界」は天(空)、「地天界」は地下世界、「三界」は地上にあたる。ただし、次元が異なる。

龍王は「三界」に住んでおられ、そのお姿は龍体と蛇体の2種類ある。

蛇や龍のお姿から、龍王や龍神を動物霊だ
と言っておられる霊能者がいるが、それは
間違い。私もそのような霊能者の本をよく読
んでいたのので、動物霊だと誤解していたが、
蛇体や龍体のお姿で出られることが多いが、
その本体は人間によく似た姿だと香代子先
生に教えられた。

お稲荷さんも、狐のお姿をしているが同様。
蛇や狐の動物霊が人を守護する力などない。
龍王は「三界」に住む、れっきとした神。

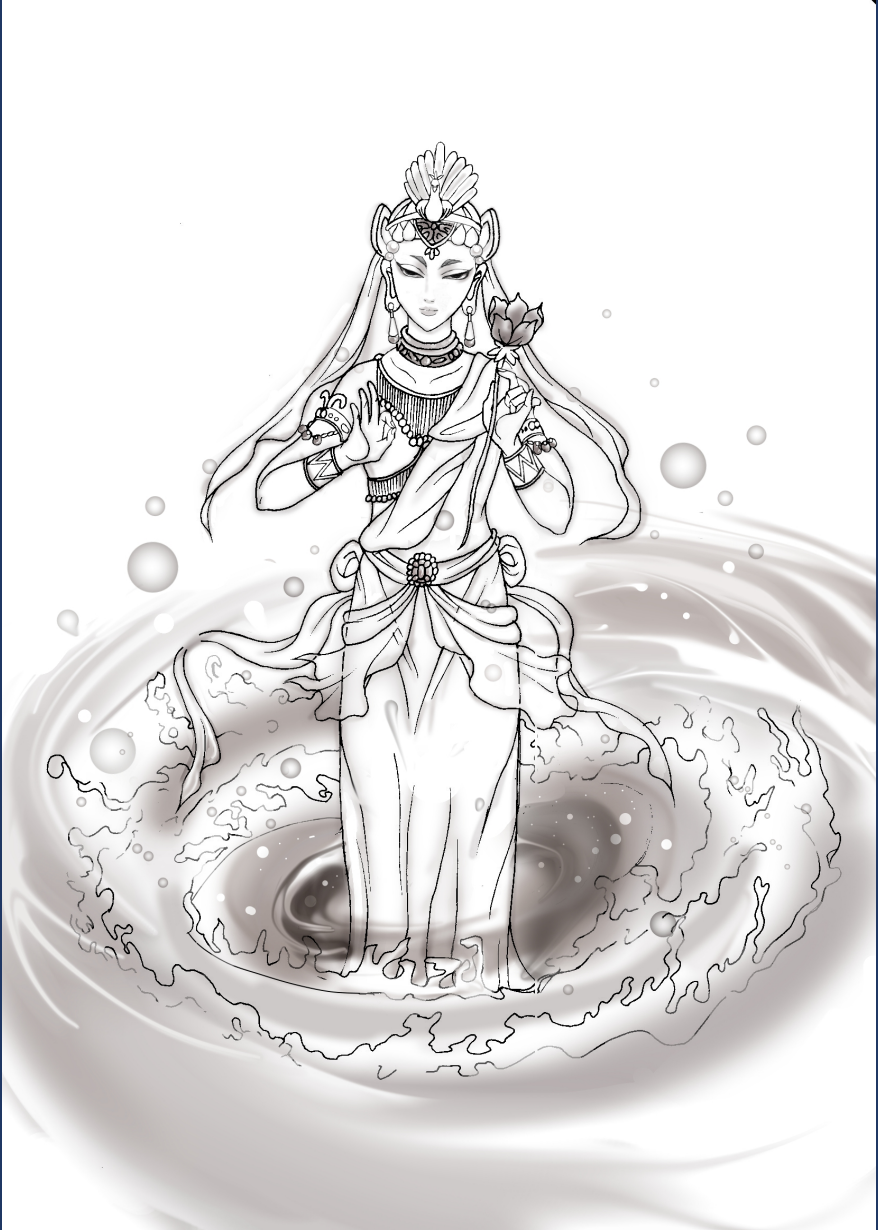
★龍王が「三界」で2千年修業を積むと、
「天上界」にうつられて龍神となる。

八大龍王(大峰山龍泉寺)



昭和41年9月1日 水木観世音菩薩

鳴門の渦潮の中に立ち、姿は正観音と同じ





昭和41年9月20日 ちんたくれい ふじん 鎮宅靈符神

どうじ 童子の姿をした72体の神々が、天空より次々と現れる。「どなた様ですか」と尋ねると

「われら天の72光なり」と答えられ、しばらくすると72体が合わさって、亀と蛇の合体した姿に変化する。



〈解説〉

道教の「玄武」は亀と蛇の合体した姿で、四神の一神。四神とは古代中国の天文学、占星術の神獣で、天の四方を守護していると考えられている。「玄武」は北の守り神とされて、東は青龍、西は白虎、南は朱雀が守護していると考えられている。

ちんたくれい ふじん

だじょう

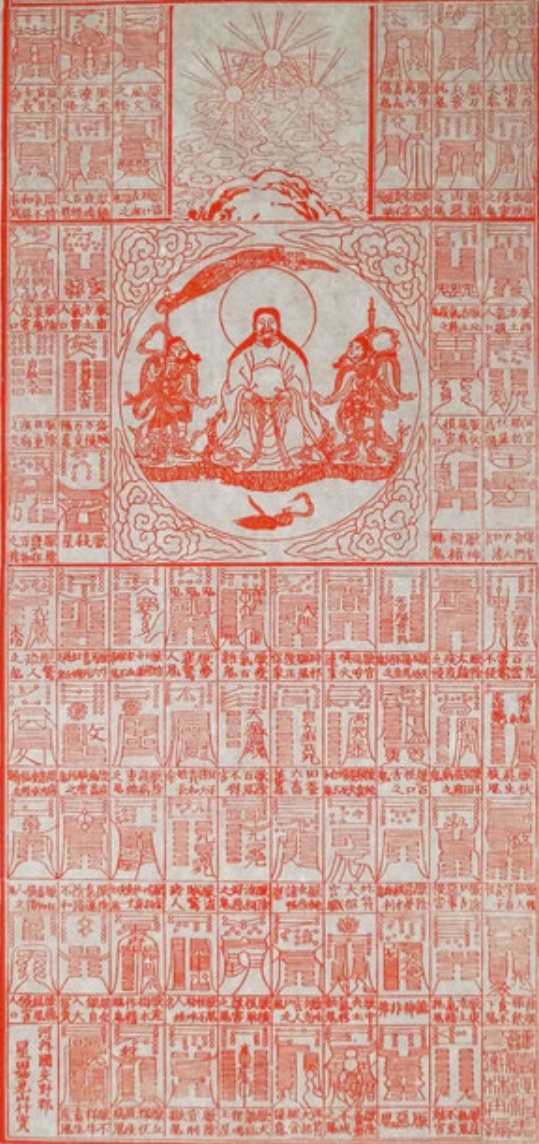
鎮宅靈符神とは、「太上秘宝鎮宅靈符」「鎮宅七十二道靈符」等とも呼ばれる72種の靈符(護符)を司る神。

72の靈符は道教經典の集大成である『道藏』の『太上秘宝鎮宅靈符』が原典とされる。中世初期に伝来したものと考えられ、

陰陽道、仏教、神道などの間で広く受容された。鎮宅靈符神は道教の「玄武」を人格神にした玄天上帝（真武大帝）であると考えられていた。日本では、^{みょうけん}妙見菩薩や^{あめの}天之^{みなかぬし}御中主、^{くにとこたちのみこと}国常立尊などと習合されている。

（ウキペディア百科事典 陰陽師 参考）

太 上 神 仙 鎮 宅 七 十 二 靈 符



大阪府交野市の星田妙見宮
「太上神仙鎮宅七十二靈符」

★この後、香代子先生は72のそれぞれの神を甦らせた。

★「神々の源流」のところで説明するが、世界の主要な**宗教の源流**に**72神**が存在する。この72神は、先生が出会った神々が、世界の主だった宗教の元になる「**世の元の神**」であることを示してくれた。

昭和55年2月 天上界の成道

香代子先生は、頻繁に高熱が出るようになった。その様子を見ていたご主人は、何らかの変化の兆しと感じられ、「熱があっせんといだらうが、瞑想して神々のところへ訪問してはどうか」と提案された。

この時の「神の世界」への訪問によって、香代子先生は「神の世界」の最高神である天地王大神之尊の御魂を持って、人間の救済のために降臨されたことを教えられる。

香代子先生は熱が下がるのを待って瞑想し、ご自身の知恵の神である、大黒天のところへ訪問した。すると大黒天は、

「天部(天上界)では、あなたには、もう何も教えることはありません。これからは、あなた自身の足で歩き自分の信ずるままに行動してください」と言われる。

香代子先生は、大黒天が「天部では、何も教えることはない」と言われたことが、不思議に思い、もう一度瞑想して、今度は天地王大神尊のところへ向かった。

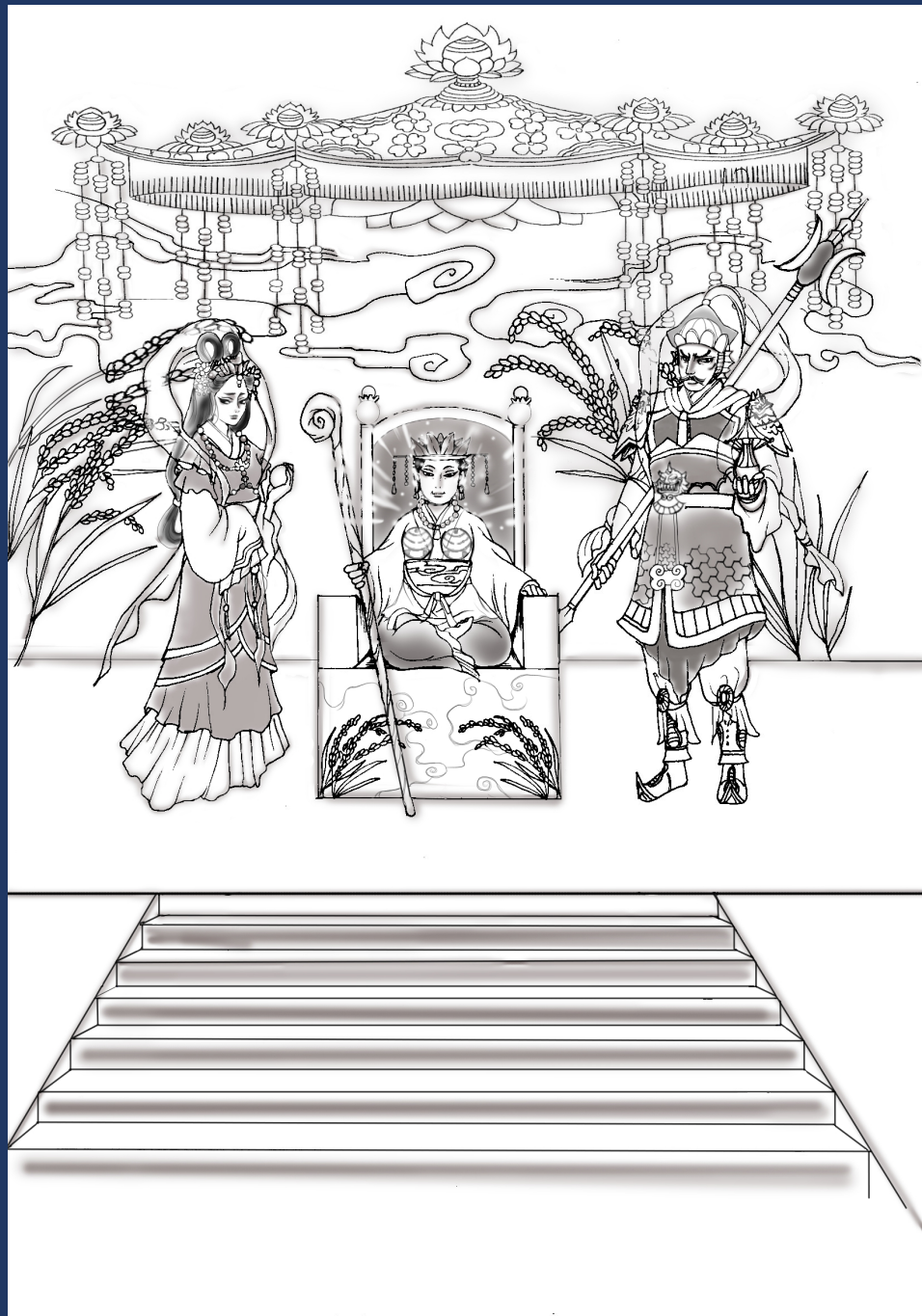
すると、天地王大神尊がおられる神殿にその姿がなく、神殿の中にはなんと！
自分の姿がある。

神殿の上には毘沙門天が立ち、四方を睨^{にら}み自分を警護しておられる。

「これは、どういうことなのですか」
と大黒天に尋ねると、

「これからは、あそこがあなたの御座所です」と教えられた。

このことは、**香代子先生＝天地王大神之尊**であること。すなわち香代子先生は、「神の世界」の最高神である天地王大神之尊の御魂を持って、人間社会に降臨されたことを教えられている。



昭和55年3月9日 ぢげん 地現菩薩

この日、先生は大黒天を呼び地天界への道を教えてもらい、その道を進んだ。

ところが、全身が圧迫されて苦しくなり、引き返そうかと思った。

その瞬間、「呼吸を止めよ」という誰かの声を聞き、しばらく呼吸を止めると楽になり、一気に暗いところに到達した。

「ここが地天界かな」と思い目をこらすと、奥の方にかすかに灯りが見える。その灯りに向かって歩いて行くと、

道の両側に松明たいまつを持った人たちが並び、足元を照らしてくれている。さらに進むと門があり、奥には寺院の様な建物が見える。門の扉を開いて入って行くと、寺院の中から右手に長い鎌の様な杖を持ち、左手に童神の手を持った、女神の様な方が立たれていた。

「どなた様でしょうか」と尋ねると、

「私はこの靈界の一切を支配している、地^ぢ
現^{げん}菩^ぼ薩^{さつ}といえます。ここが靈界という所です。
靈界の案内は後日に致しましょう。私の体
を抱いてみなさい」と言われる。

言われた通り抱いてみると、一見、普通の体の大きさに見えていたのだが、両手を一杯広げても、とても抱ききれないほどの大きな体をしておられた。

「私には、とても抱ききれません」と言うと、
地現菩薩は「人を救うには、先ず見極めが
大事です。誰彼だれかれなしに無駄をしないように。
そして私に用を為す時は、この九字を切り
なさい」と言って、九字のきり方も教えられ
た。

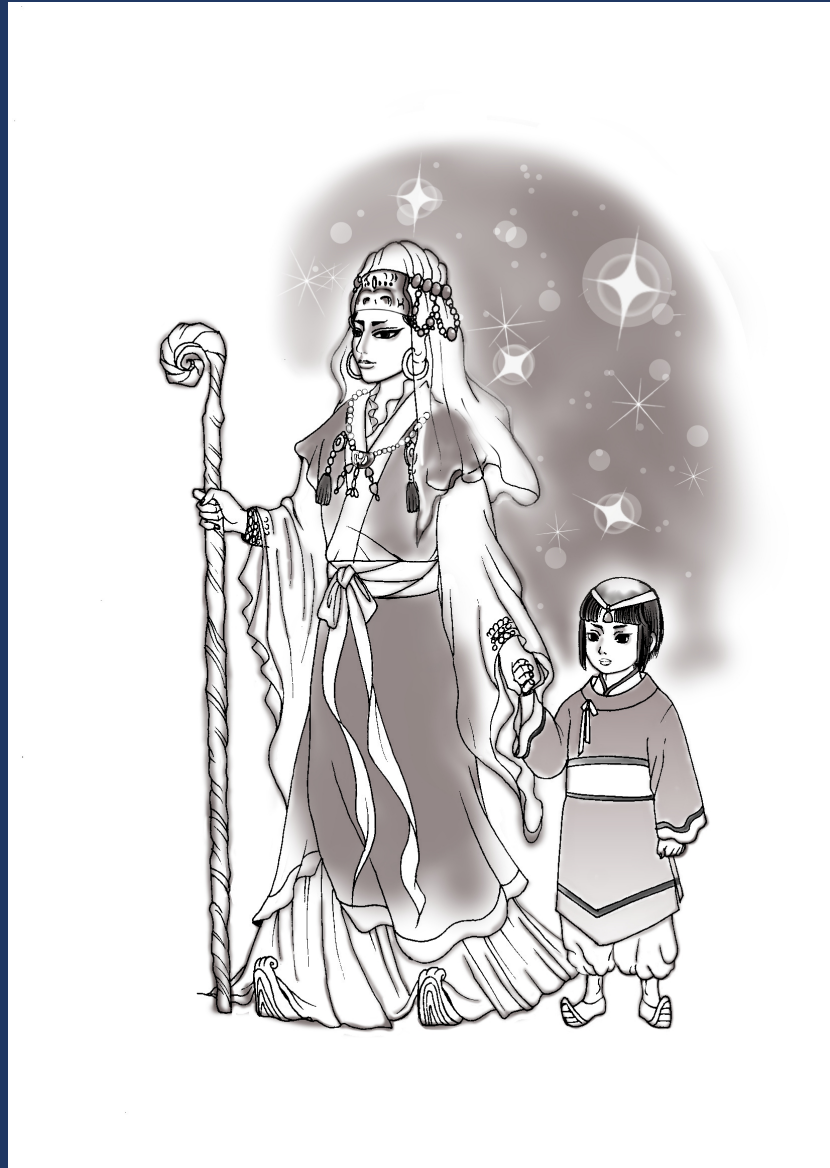
先生は翌日から5日間、地現菩薩の案内で、
霊界の隅々まで観てまわった。

そして、霊界への近道も教えられた。

★先生が霊界で出会った地現菩薩は、
仏教事典には載っていない。

私は本当にそんな神がおれるのか疑問に
思っていたが、後に、エジプトの霊界の王
「オシリス」の姿を見て驚いた。
その姿は、地現菩薩とそっくり。

地現菩薩



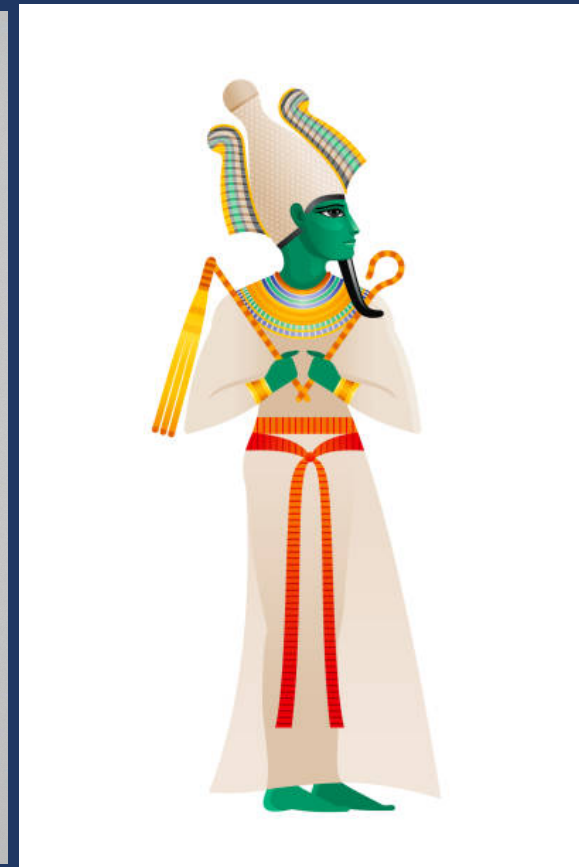
オシリス(エジプトの神)



地現菩薩



オシリス



〈解説〉

九字とは中国の道家により呪力を持つとさ

れた、「臨兵闘者皆陣列前行」の9つの漢字

これが日本に伝えられ、陰陽道、密教、修験道などで、主に護身のための呪文として行われた。

この言葉を唱えながら、手で印を結ぶか指を剣になぞらえて空中に線を描くことで、災いから身を守ると信じられてきた。

(ウィキペディア百科事典)

★地現菩薩から教えられた九字は、空中に線を描くものだが、先生は多くの神々から直接、様々な九字の切り方を教えられている。

〈解説〉 霊界について

死後の世界である**霊界**は**地天界**の中にある。**霊界**は**7層**に別れていて、生前のおこないによって入る層が決められる。

生前の行いがいいほど、上の階層に入る。

3層半以上が一般に**極楽**と呼ばれる。

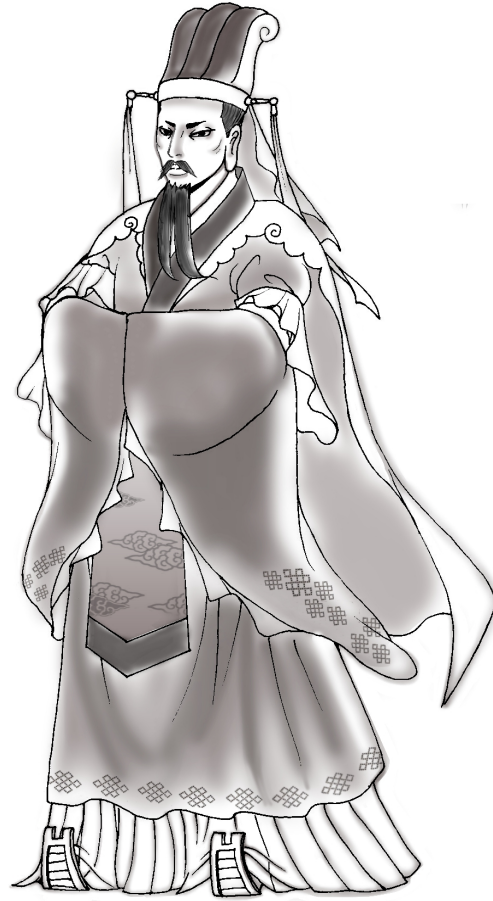
霊能者の本を読むと、霊界の上層界を「神の世界」と言われている方がおられるが、それは霊界の一部であり、霊界も地天界のごく一部。

昭和55年3月18日 金色夜叉明王

地天界に向うと、こんじき や し ゃ みょうおう金色夜叉明王こうんじき や し ゃ みょうおうとう神が現れた。

江戸時代にしょうか商家で使用されていた帳簿を大福帳というが、この神はそれによく似た細長い帳面を左手に抱えている。

「私は天と地をつなぐ、連絡の役割をするものです。大地のあらゆるところに眷属を配置しているので、大地の出来事はすべて知っております。ことの善も悪も、人の生も死もすべてです」と言われた。



昭和55年3月19日 あさめ みょうおう 浅芽明王

立派な美しい宮殿に住んでおられ、毘沙門
天に良く似た姿の浅芽明王という神さまが
現れ、次のように言われた。

「私は**無から有を生む役割**を持っています。
何も無い所にも、あらゆる芽を出すことが
できます。あなたが必要とされる時はおお
せつけ下さい。ただし、時間帯があります。
〇時と〇時です」

昭和55年4月20日 地天界の成道

浅芽明王 優節如来 大元帥明王

この日も、地天界へ向かった。

1時間の瞑想後、香代子先生は地天界から
戻ってこられた。

様子を尋ねると、

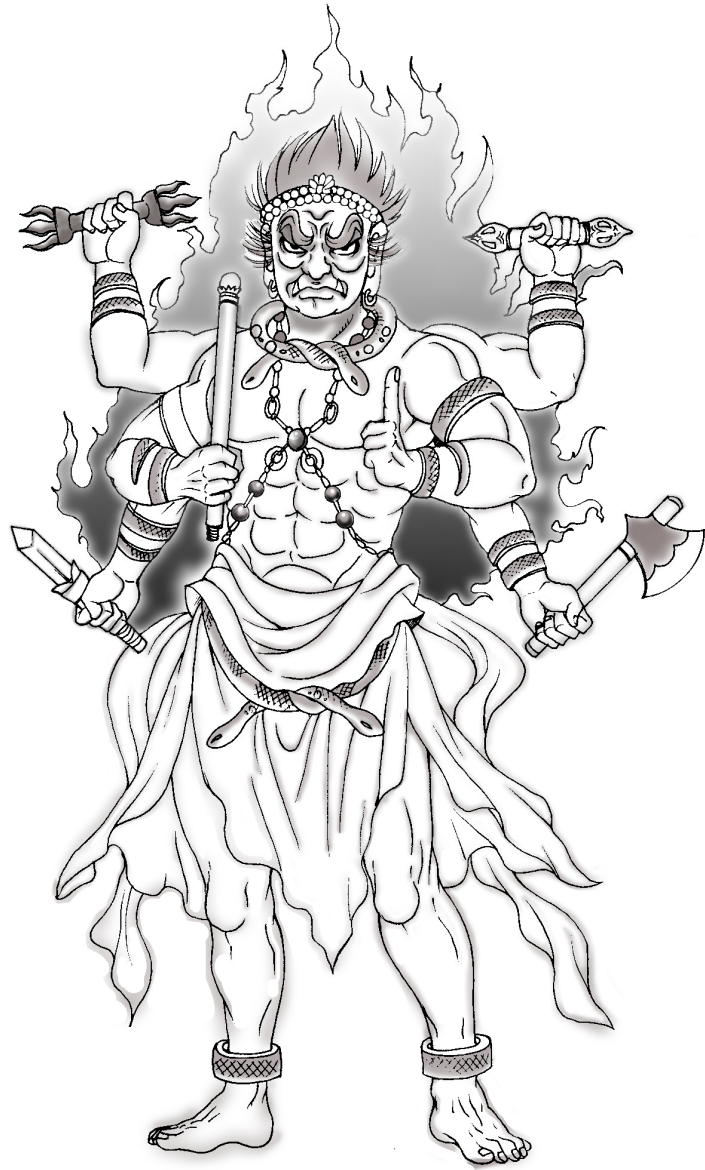
あさめ みょうおう ゆうせつによらい

浅芽明王と優節如来という神が先生を先導され、通る道の両側には地天界の神々がずらりと並び、礼をしながらお迎え下さっている。浅芽明王と優節如来のあとを歩いていくと、地天界の宮殿に案内され、「ここが地天界のあなたの宮殿です」と言われ、地天界の成道をお知らせになった。



この日、香代子先生は大元帥明王のお姿も
確認され、次のように話された。

「岩壁が現れて、最初は岩かなと思っていた
たら、それが明王の片方の脛すねの一部だっ
たんです。上半身ははるか天空にあり、お
顔は天まで届く程の大きさでした。驚きの
一語につきるとはあのことです」



★この日の地天界の探訪で、香代子先生
は天上界に続いて、**地天界の成道を果た
された。**

昭和55年4月25日午前11時

甦った「世の元の神」

この日、神から教えられた、「天地三界」を
象徴するという図柄を施した別注の台座に、
天上界、地天界、三界のすべての神々の御
魂を入魂した鏡をおさめた。



神前に座してから14年、
香代子先生は天地三界の成道を成し遂げ、
天地三界の「世の元の神」が甦った。

◆お伝えしたいのは「神の救いの計画」

- ・「約束の人」香代子先生と「ヤタガラス」が
預かった「神の救いの計画」によると、

地球の再生の「約束の時」に、世界を救うために「約束の地」に「約束の人」が再臨し、「人の世」から「神の世」になるというもの。

- ・甦った神々から

「約束の時」には、「約束の地」に再臨する
「約束の人」によって「世の元の神」甦る。

➡「世の元の神」が甦ることも「神の計画」